

2019年度男女共同参画センターはあもにい  
第2回運営審議会 議事録

1. 2020年2月13日(木) 10:00~12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
  - ◆ 運営審議委員(8名 五十音順) ※2名欠席  
井手志保委員 伊藤一敏委員 坂口京子委員 阪本恵子委員 中山敏子委員  
広渡純子委員 宮村飛伸委員 八幡彩子委員
  - ◆ オブザーバー  
熊本市市民局市民生活部男女共同参画課 課長 東原福美
  - ◆ 事務局
    - ・代表企業A 上村浩二(九州総合サービス株式会社 専務取締役)  
太田勇雄(九州総合サービス株式会社 事業推進本部部長)  
飯干敏克(九州総合サービス株式会社 事業推進本部課長)
    - ・構成企業B 入杉三久(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
    - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミューズプランニング 代表取締役)  
坂本ミオ(有限会社ミューズプランニング 取締役副社長 はあもにい館長)
    - ・副館長(兼 総務管理課課長) 堀井康希
    - ・舞台事業課・維持管理課課長 安藤陽介
    - ・企画事業課課長 伊井純子、係長 内田美香、主任 田中美帆、山口美和
    - ・総務管理課係長 杉卓倫、大久保章
4. 会次第及び議事内容
  - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表代理 上村浩二)
  - (2) 館長あいさつ
  - (3) 審議会委員および出席者紹介
  - (4) 審議
    - 議題1 はあもにい管理運営状況について 会館利用状況報告
    - 議題2 2019年度実施事業について
    - 議題3 2020年度事業方針、事業計画について その他

## 5. 特記事項

議事録の署名に関しては、井手委員、宮村委員が推薦され、審議会承認となった。

## 6. 議事録

### ● 議題1 質疑応答・審議

(八幡委員) いずれも前年度比 80～110%、平年並みの利用状況、稼働率といえそうだ。比較的前年度に比べ利用者数が少ない貸室は、室別利用者数(4～1月)の表でいうと、和室とリハーサルC室。室別区分稼働率の表では、リハーサルC室の-10.9%が目立つ。これは、部屋特有の形状があり、貸室として申し込みが入りにくいなど、何か理由があるのか。

(堀井) リハーサルC室は鏡張りの部屋で踊り等の練習が主な利用用途。収容可能人数が比較的多いため、駐車場混雑状況、他の貸室の利用状況に応じて、部屋の予約を差し止めることがある。また、その部屋を利用する団体の活動状況にも影響を受けていると思う。

(八幡委員) 審議員はどうしても事業の審議に目がいきがちだが、センターの貸室の利用状況、運営状況、財務状況も運営において大事な問題だ。

(堀井) 利用料金制を取っているので、利用料金が運営資金となるが、利益ばかりを追求しているわけではない。今年度は市中心部に新しい施設オープンが多かったので、「たまにはそちらを使ってみよう」と思われた利用者もあったかと思う。当施設は老朽化してきているので、職員のサービスの充実、不足備品の追加、ご利用のリポートへのお声掛けで利用促進をはかっている。

(八幡委員) 市中心部に新しい施設がオープンする中、前年と同程度の数字をキープしている点、非常に頑張られていると感じる。

(坂口委員) 食品加工室、食のアトリエ、リハーサルA等いろいろな施設がある中、特に会議室は利用しにくいイメージを感じているのだが、どのような方が利用されるのか。各貸室の部屋の特徴、アピールポイントがわかると利用しやすいのでは。

(堀井) たとえば創作アトリエは絵画練習等で利用できるが、過去に少年野球のストレッチなど室内トレーニングでの利用もあった。幅広い用途に利用できる。食のアトリエは、調理施設が整っているので料理教室、交流会、通常の会議なども行われている。会議室は、一般企業の会議、勉強会、通常の研修会などが行われている。

(坂口委員) 研修室と会議室の利用の差、用途の差は何か。

(堀井) 会議室のほうが若干料金が高いので、まず研修室を案内し、状況に応じて会議室を提案している。

(坂口委員)「ここを気に入って」というわけではなく？

(堀井) もちろんそういう利用もある。会議室は重厚な印象の部屋なので、そういうイメージを好まれる場合もある。

(八幡委員) 多用途に使える、特徴のある貸室が多くあるので、はあもにいの持ち味を大事にしていきたい。駐車場等の不便はないか。

(堀井) 有料駐車場に関しては、お客様から「もっと広くしてほしい」等の要望はあるが、公共交通機関利用の協力を求めながら運用している。来年度4月、予定の段階ではあるが、所管の男女共同参画課のご配慮により、無料駐車場が増設できそうなので、今後そちらも活用しつつ運営していきたい。

(宮村委員) 昨年、メンズカレッジを受講した。有料駐車場が満車の場合は遠い無料駐車場から歩くことが多い。今回、いろいろな部屋があり、料金も良心的であると知った。この会議室も一般利用ができるなら、利用してみたい。「使い方」のPRをFacebook等で発信してもらえると、いろいろな方が知ることができるのでは。市民団体なども、活動場所の情報を求めているので、そういった団体への周知は稼働率アップにつながると思う。

## ● 議題2 質疑応答・審議

(広渡委員) 新しい事業もあるが、以前からある事業も充実してきていると感じる。ウイメンズカレッジについても、修了生のネットワーク形成、受講者が女性の政治参画へ関心を深めた点、内容充実度の高さに希望を感じた。メンズカレッジにも期待している。また、無料防災出前講座も定着してきていると思う。1月に佐賀と長崎で開催された、大学関係者対象の「防災・減災を考える催し」に出席した際、はあもにいの「防災ポイントBOOK」をすでに参加者がご存じで、他の地域の方にも貢献できている冊子だと感じた。ところで、ユニバーサルマナー検定は以前からあったものか。これから非常に重要になるものであり、実際に体験してみないとわからないものなので、こういうチャンスがあるのはとても良い。若者対象のワーク・ライフ・バランス講座は、本校にも来ていただいたが、学生の意識が変わるきっかけになって良かった。本学は就職に関わる資格を取る意識が高い学生が多いが、その反面卒業後の生活(LIFE)を考えておらず、卒業後の問題として直面することも多い。学生時代にこれを考えることは大変意義があり、今後の働き方改革にもつながると思うので、他の学校にも広がってほしい。

(中山委員) 今年度新たにメンズカレッジが開講されたが、これについての受講者からの反応を伺いたい。

(坂本) 企業所属の方が受講者の大半だった。ハラスメントについては、出席者により認識の差が大きく、講座内容について「これくらい当たり前」という方もいれば、「もの

すごく為になった。社員全員に聞かせたい」という感想もあった。性的マイノリティに関しては、企業の方たちは研修をほとんど受けたことがないようだった。初めてきちんと学び「『自分の近くにいるかもしれない』と考えたことがなかった」「身近にいることを踏まえて企業活動をしなくてはいけない」という感想が出た。良かったのは、就職採用時の配慮事項について、グループワーク内で熱心に語られたこと。こうした点からも一定の効果を感じているところである。

（阪本委員）多岐にわたっての講座、男女共同参画に対する皆様のアピールに感動した。1月24日の熊本市の政策事例発表に参加した。ウィメンズカレッジ生が、受講を経て発表を行い、受賞をしたと今知った。これまで男性の活躍ばかりを耳にしてきたが、女性の活躍のほう为上回っているのでは。これが進めば「男女共同参画」が当たり前の社会になると期待が持てる。また、今年度実施事業が来年度の事業予定につながっていくことが、はあもにいととしてのやりがいにつながるだろう。私たちも応援していきたいと感じた。

（宮村委員）メンズカレッジ全3回に出席し、基礎の基礎から学ぶ立場で、非常に有意義だった。個人的に一番学びが多かったのは、初回の熊本大学の鈴木教授の回。教え方が上手で、大学の授業のようで聴きやすく、法の制定から入る流れは良かった。企業からの指示で来ている人の中には寝ている人もいて、モチベーションに差があった。教え方のうまい方や、「話を聞きに来たいな」と思える著名人を呼ぶなど、人選にも期待したい。どこかで1回お楽しみ講座を入れ、バランスを取りつつ総合的には真面目に学べる講座になると良いと思う。今回は、当初の目的通り「基礎作り」という観点では、意見交流もできており、成功だったと感じる。その他の事業に関しては、勢いがあり充実しているし、我々の意見を反映してくれた内容だと思った。講演会にも参加したかったが、週末は仕事で行けないことが多い。土日休みでない人向けに、平日開催の活動も計画していただきたい。

（八幡委員）前回の審議会はメンズカレッジ開催前。宮村委員は「ウィメンズカレッジのようにメンズカレッジもキラキラ感のある講座を」とおっしゃっていたが、どうだったか。

（宮村委員）今回のテーマは「土台作り」と伺っており、その通りの実施であったので、そういった講座はなかった。次回は「スーツの着こなし」等、期待したい。

（八幡委員）今後、キラキラ感を求める男性を対象とした講座も企画してもいいのかも。

（井手委員）宮村委員の意見にあったように、平日が休みの人が参加しやすい講座を検討していただきたい。「女性の起業」や「再就職支援」は平日の日中開催もいいと思うが、現在企業に務めている方の「キャリアアップ講座」は、平日の夜に実施することを検討してほしい。土日はプライベートに使いたいと考える人が多いと思う。

(八幡委員) キャリアアップ講座のニーズ調査、ニーズの把握についてはいかがか。

(坂本) 簿記講座等は、今から就職をする方対象の講座になっており、「その後就職されたか」「資格は活かしているか」等のアンケートは実施しているが、事前の「実施希望日時」のアンケートはまだ経験がない。今後考えていきたい。

(坂口委員) ウィメンズカレッジは6期を終え、応用、発展が素敵だと思う。今後、メンズカレッジとの交流講座はあるか。また、メンズカレッジの成長も期待しているが、対象年齢が高いイメージがある。独身の方や30代男性向けに企画すると先程のキラキラ感が増すのではないか。講師の質の点でも、30代くらいでユニークな取り組みをされている方をお呼びしても良いのでは、と思う。高校生対象のデートDV防止講座はすごくいいが、それとともに「協力」という意味の「パートナーシップの学び」にも発展させてほしい。テレワークは年数を重ね浸透してきているが、例えばZOOMを利用し、この審議会の会議の場をオンラインでつないで中継する試みをしてはどうか。育児休暇中、介護中でこの場に参加はできないがweb会議ができる人の意見も聞けて良いのではないか。

(坂本) 次年度の計画で、性的マイノリティの講座をウィメンズカレッジとメンズカレッジでクロスしようと考えている。ただ、ウィメンズカレッジは自主的に受講され、土曜の午前中に行う。かたやメンズカレッジは、企業研修の一つとして取り組んでおり、平日午後を開催する。男性が土曜の午前中に自主的に受講されるかどうかは、正直なところ賭けでもある。それから、メンズカレッジの参加年代は20代9%、30代13%、40代35%、ここまでで半数を超える。また、50代39%、60代4%なので、年齢層はご想像よりそこまで高くない状況。

(伊藤委員) 私の住む黒髪校区は超高齢地域、小学生はたった13人。住民の高齢化を地区としてどう支えていくかが課題。最高齢103歳、一人住まいの方もおられ、そういった方は地域で支えていかねばならず、地域の活性化が大事な時代になっていくと思っている。難しい時代をどう生き残っていくかが私の課題。どうぞ、力・知恵を貸していただきたい。

(八幡委員) 高齢化社会の中、女性の視点で高齢化や福祉にどうかかわるのか、町づくりや地域活性の勉強会を設けていただけるとありがたい。

私は、ウィメンズカレッジのエビデンスとして、成果発表の一環で熊本市の発表の場に立ち、賞を受賞したことを嬉しく思った。また、熊本は男女共同参画について歴史的にも造詣が深い土地だと思う。基礎講座で取り上げた益城出身の四賢婦人のお話など、「熊本の地域性と男女共同参画」を考える上でも非常に意義がある。また、熊本地震に関連した企画や防災出前講座による発信も大変ありがたい。それから、視察の受け入れリストによると、県内外からとても多くの方がはあもにいに来館している。素晴らしい

ことだ。今後「日本の男女共同参画センターの推進は、はあもにいから」と言われるようになってくれると嬉しい。さて、はあもにいの所管課、熊本市男女共同参画課の東原課長の目からは、どのように思われるか。

(熊本市男女共同参画課 東原課長) 様々な事業展開をしており、本市の男女共同参画の推進に多大な協力をいただいていると思う。「女性の活躍事業」については、まず10月に「働く女性の交流大会」を実施。本年度で4回目、200名程の参加があり、アキレス美知子氏の講演会を行った。1月24日は、初開催となる「女性活躍に向けた事例発表会」を行った。坂本館長の「ウィメンズカレッジ修了生の発表の場がほしい」という声を発端に、本市で予算化、実施した。これまで「働く女性の交流大会」等のさまざまな事業に参加して知識を得た方々に、ご自身の考え、つまりインプットを、熊本市に対してのアイデアとしてアウトプットしてもらいたい、と始めた。第1部田澤由利氏のテレワークの講演、熊本市子育て優良企業表彰を受賞した株式会社SHIFT、熊本機能病院の事例発表、熊本労働局より女性活躍推進法改正内容の紹介、そして第2部で女性のアイデア発表として5グループが発表。タイミングが合わず市政だより掲載はできなかったが、様々な行事の際にチラシを配布し発表グループを募集し、5グループのエントリーがあった。最優秀賞のグループは、熊本市の子育て優良企業、内閣府「えるぼし」認定企業、県のブライツ企業に認定されているかどうかなど、企業の取り組みを知る上で、非常に手間がかかるので、それぞれの認定を総合的にまとめたサイトがあってはどうか、という提案発表だった。優秀賞は、東区の健康づくりサポーター事業の女性版を作ってはどうか、というもの。専門家より素人がまわりに伝えたほうが浸透しやすいという結果もあるので、健康に興味のある市民が健康について学び伝える立場になる、といった内容だった。特別賞は「Kaeru マイスター制度」を考えたグループで、働き方を変えようというものだった。こういった優秀な事例については、関係課に話して事業につなげたいと考えている。そうすることで、発表した女性たちのモチベーションアップにつながると思う。先ほどご紹介があった「益城出身の四賢婦人」は、平成元年のオープン時に作った「くまもと黎明期の女たち」というパネルが会館1階にあるので、ぜひ見てほしい。

(八幡委員) 1月24日の発表会については、また何か紙面に掲載されるか。

(坂本) 2月15日付の熊本市新聞朝刊に折り込まれる生活情報紙「くまにちあれんじ」に同日の様子が掲載される予定。

### 議題3 質疑応答・審議

(中山委員) この会館ができるにあたり、女性が立ち上がって、そこから30年。これまで大変だったと思う。歴代館長以下、職員の方の努力があつてのものであり、応援して

くれる方の協力体制のおかげである。このセンターが九州一のセンターになってくれれば良いと願っている。

(広渡委員) これからの希望として、LGBT、多様性の理解を促す講座の実施がある。大人に関するプログラムはあるが、若年層にこそ、プログラムの必要性を感じている。とりわけ小学中・高学年向けのプログラム、保護者と一緒でなくても参加できる年代に対して、多様性を認め合える社会を考えるプログラムを行ってほしい。

(中山委員) 以前私も提案したことがあるが、義務教育課程の問題でなかなか難しいと返答があったと記憶している。その点、現在はどうかだろうか。

(広渡委員) 義務教育では難しいところを、はあもにいで取り上げていただくことはできないか。

(坂口委員) 小6、中1に対象を限定した、LGBTをはじめとする「男女についての考え方の違い、国際的な認識の違い」について伝える機会があると良いと思う。小6から中1は大きな変化がある時期であり、そのとき学ぶ場があると、子ども同士でもつながりができる利点がある。また彼らは大人が思う以上に大人で、社会的問題を真剣に考える力もある。国際的視点を盛り込んだ男女共同参画を学ぶプログラムをぜひ検討してほしい。

(八幡委員) 黒髪小学校の見学来館もあっているようなので、そういった機会を子どもたちの学習の場として検討してほしい。最後に、熊本県民交流館パレア館長、藤井さんから一言、県からの視点でお願いしたい。

(藤井) はあもにいの館長として在籍した6年間の試行錯誤も振り返りながら、とても内容が充実してきたと感じた。その分スタッフの負担も大きいのではないかとも思うが、スタッフ自身も力をつけてきていると思う。直接企画に関わらないスタッフの支えも大きいと、聞きながら嬉しく思った。現在、県のセンターに在籍している。予算や人員に差はあれど、県も負けぬように頑張りたい。パレアのライブラリーには、男女共同参画を学ぶ貸出用DVDがある。若年層向けの男女共同参画の推進には、そちらもうまく活用していただきながら、連携して取り組めたらと思う。